

[プログラム]

【第1日目/2019年3月16日(土)】

12:30~13:00(30分) 受付

13:00~13:30(30分) 事務連絡、開会挨拶

13:30~14:00(30分) 講義①「スポーツ・コンプライアンスとは - ルールとフェアプレイ精神を守る - 」

武藤芳照 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構代表理事、東京大学名誉教授)

14:00~15:00(60分) 講義②「スポーツ・コンプライアンス違反について - 事例から学ぶⅠ - 」

14:00~14:30(30分) ②-1「近年の違反事例の特徴と課題」

増島みどり (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構業務執行理事、スポーツライター)

14:30~15:00(30分) ②-2「違反事例の法的解釈」

大橋卓生 (弁護士、全日本テコンドー協会専務理事)

15:20~16:20(60分) 講義③「スポーツ・コンプライアンス違反について - 事例から学ぶⅡ - 」

15:20~15:50(30分) ③-1「スポーツ指導者の立場から」

今井純子 (日本サッカー協会女子委員長)

15:50~16:20(30分) ③-2「パラ・アスリートの立場から」

成田真由美 (パラリンピック水泳金メダリスト)

16:30~17:15(45分)「グループワーク」(10班/各班10名)

与えられたコンプライアンス違反事例について、それぞれの特徴、発生要因と背景、事後対応、再発防止、今後の指導・教育のあり方等についてファシリテーターの指導・助言を参考にしながら、討議、発表、意見交換等を行う。

[ファシリテーター(指導・助言役)] 機構の理事・監事及び外部専門家

17:30~19:00(90分) 情報交換会

【第2日目/2019年3月17日(日)】

8:40~9:00(20分) 受付

9:00~9:30(30分) 講義④「スポーツ競技団体のガバナンス(組織統治)体制の現状と課題」

櫻井康史 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事・事務局長、弁護士)

9:30~10:00(30分) 講義⑤「スポーツ・コンプライアンス教育の方法と内容」

工藤保子 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、大東文化大学准教授)

10:00~11:00(60分) 講義⑥「不適切な事案が発生した場合の対応」

10:00~10:30(30分) ⑥-1「競技団体内のコンプライアンス事案処理の活動経験から」

辻村哲夫 (日本学生野球協会審査室長)

10:30~11:00(30分) ⑥-2「対応組織、規則、処分、公表等について」

上柳敏郎 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構副代表理事、弁護士)

11:15~12:05(50分) 筆記試験 (開始30分後から退出可能)

13:00~13:30(30分) 総合質疑・討論 (両日の講師・ファシリテーター参加)

13:30~14:00(30分) 事務説明、アンケート記入、閉会の辞、修了証交付、解散

※ 当日、諸般の事情により講師・プログラムが変更されることがあります。

※ お申し込みはホームページから可能です。www.spo-com.org

連絡・問い合わせ先：一般社団法人 スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-21-19 東急虎ノ門ビル 3F www.spo-com.org

Tel : 03-5521-2205 / Fax : 03-3581-2210 / e-mail : info@spo-com.org 担当：千明(ちぎら)、中山(なかやま)

(原則として、火・水・木・金の午前10時~12時、13時~15時に在籍しています。不在の際には、メール・ファックスでご連絡ください。)

一般社団法人 スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

スポーツ・コンプライアンス
・オフィサー

第1回 養成講習会のご案内

~時代が求める新たな人材育成プログラム~

SPORTS
COMPLIANCE

[開催概要]

目的：スポーツ界のコンプライアンスの徹底を図り、スポーツの価値と力を守り育むための教育・啓発活動を担う専門的人材を養成する。

日時：2019年3月16日(土)・17日(日)

会場：東京大学弥生講堂(〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内)

主催：一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

募集人数：100名(2018年4月1日時点で満18歳以上で、スポーツ・コンプライアンス教育の普及・啓発に関心を有する者)

受講料：32,400円(消費税込。受講費、資料代、審査・認定料を含む)

募集手続：① 本機構ホームページ(www.spo-com.org)より所定事項を記載してお申し込みください。

定員100名、キャンセル待ちは20名、計120名に達し次第、締め切ります。

② お申し込み受け付け後、事務局よりメールにて受講案内・受講料の振込方法等を順次ご案内致します。

* 不明な点があれば事務局までお問い合わせください。

認定：所定の講義を全て受講し、認定試験に合格した者に、本機構より認定証を授与する。(資格の有効期限は4年間)

※ ロゴマークおよび「SPORTS COMPLIANCE」、「スポーツ・コンプライアンス・オフィサー」は、一般社団法人スポーツコンプライアンス教育振興機構の登録商標です。

【講師略歴及び各講義等の主な内容】



講義①「スポーツ・コンプライアンスとは － ルールとフェアプレイ精神を守る － 」

武藤 芳照 (むとう・よしてる)

スポーツ・コンプライアンス教育振興機構代表理事。東京健康リハビリテーション総合研究所所長。東京大学名誉教授。

【略歴】名古屋大学医学部卒業。整形外科医・スポーツ医として五輪水泳チームドクター、国際水泳連盟(FINA)医事委員等を長年務めた。東京大学教育学部長、同理事・副学長、日体大総合研究所所長等を経て、2018年4月より現職。スポーツ医学、身体教育学の立場から、健全なスポーツの普及・振興や高齢者の転倒予防等に関する教育・研究・実践活動に従事。少林寺拳法連盟顧問、日本学生野球協会理事。

【講義概要】1. スポーツ・コンプライアンス(スポ・コン)とは何か/2. スポーツ界の価値と力/3. スポーツ界のひずみ(体罰、暴力・暴言、パワーハラスメント、セクシャル・ハラスメント、ドーピング、パラドーピング、八百長、不正行為等)/4. スポーツ界のひずみをなくすために/5. スポーツの価値を守り、信頼を高めるために 等について概説する



講義②-1「スポーツ・コンプライアンス違反について － 事例から学ぶⅠ －

近年の違反事例の特徴と課題」

増島 みどり (ますじま・みどり)

スポーツ・ライター、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構業務執行理事/The Stadium 取締役、法政大学スポーツ健康学部客員。

【略歴】学習院大学法学部卒業。スポーツ紙記者を経て、フリーのスポーツライターに。長年、五輪やプロ野球、サッカーのワールドカップ等、数多くの国内外のスポーツ現場の取材を精力的に行い、多数の著作を世に出す。『6月の軌跡』(文芸春秋)でミズノ・スポーツライター賞受賞。

【講義概要】近年、日本のスポーツ界(カヌー、レスリング、ボクシング、剣道、バスケットボール、体操、女子アイスホッケー、重量挙げ、サッカー等)で起きた不祥事、コンプライアンス違反事案の内容と特徴、その後、について分析・解説すると共に、今までの問題点、今後の課題等を具体的に提示する。



講義②-2「スポーツ・コンプライアンス違反について － 事例から学ぶⅠ －

違反事例の法的解釈」

大橋 卓生 (おおはし・たかお)

虎ノ門協同法律事務所・弁護士、全日本テコンドー協会専務理事、金沢工業大学虎ノ門大学院・教授

【略歴】北海道大学法学部卒。東京ドーム入社後、法務部門を経験、スポーツ&エンターテインメントを専門とする弁護士を志す。2004年弁護士登録。専門はスポーツ法、エンターテインメント法、著作権法等。日本オリンピック委員会評議員。

【講義概要】近年の日本のスポーツ界のコンプライアンス違反事例、犯罪・違法行為の内容とその法的解釈についてわかりやすく具体的に解説する。(暴力・傷害事件、財産犯罪、性犯罪、賭博、八百長、交通違反・違法薬物等)。あわせて、「なぜアスリートの不祥事はニュースで大きく扱われるのか？」その背景と理由についても言及する。



講義③-1「スポーツ・コンプライアンス違反について － 事例から学ぶⅡ －

スポーツ指導者の立場から」

今井 純子 (いまい・じゅんこ)

日本サッカー協会理事。日本サッカー協会女子委員長。日本サッカー協会技術部テクニカルハウス。

【略歴】筑波大学大学院博士課程文芸言語研究科単位取得卒業。1996年から2001年まで、筑波大学大学院にて、JFAS級指導者講習会、JFA・Jリーグ寄附講座事務局を経て、2002年より日本サッカー協会。元々他競技を行っていたが大学院で女子サッカーに出会う。日本サッカー協会にて、指導者養成、育成等の仕事に携わる一方で、女子サッカーに、国内・海外の様々な面から関わってきた。2016年より日本サッカー協会女子委員長。公益財団法人日本スポーツ協会理事。

【講義概要】サッカーの指導現場、アジアサッカー連盟(AFC)や国際サッカー連盟(FIFA)での活動経験を基に「日本の女子サッカーが、ものすごくリスペクトされて大事にされている」との認識が強い。その中核の一つに、ルールとマナーを守る、コンプライアンス、インテグリティ、フェアプレイ精神を守り大切にす姿勢がある。指導者の立場から、現代の日本のスポーツ界のひずみとその改善への具体的対応について語る。

講義③-2「スポーツ・コンプライアンス違反について － 事例から学ぶⅡ －

パラ・アスリートの立場から」

成田 真由美 (なりた・まゆみ)

パラリンピック競泳選手。

【略歴】アトランタ(1996)、シドニー(2000)、アテネ(2004)、北京(2008)4大会連続出場し、合計15個の金メダルを獲得。(内13個は世界新記録付)。2016年リオデジャネイロ・パラリンピックにも出場し、通算5大会出場を果たす。2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会理事、第8期中央教育審議会委員。

【講義概要】パラリンピックをはじめとする障害者スポーツの世界でも、五輪を頂点とする障害のない競技者のスポーツの世界とまったく同様のコンプライアンス違反事案や法令違反事例(暴力・暴言、ドーピング、パワー・ハラスメント、セクシャル・ハラスメント等)が起きる。また一方、機能障害の評価を基盤にした競技運営の中で、「障害の偽装」をはじめとする障害者スポーツ特有の問題も生じている。2020年東京パラリンピックをクリーン・スポーツと共生社会の実現への道ととらえ、パラ・アスリートの立場から、スポーツ・コンプライアンスについて率直な思いと希望を伝える。



講義④「スポーツ競技団体のガバナンス(組織統治)体制の現状と課題」

櫻井 康史 (さくらい・やすふみ)

晴海パートナーズ法律事務所、弁護士。日本サッカー協会 仲介人。日本スポーツ法学会 会員。全国倒産処理弁護士ネットワーク 会員。

【略歴】早稲田大学法学部卒業。中央大学大学院法務研究科修了。

【講義概要】様々な企業再生の事業に長年取り組んできた経験知を活かし、スポーツ界のコンプライアンス違反を招来する背景・基盤としてのスポーツ競技団体のガバナンス(組織統治)の現状の問題点とその解決すべき課題と対応について解説する。



講義⑤「スポーツ・コンプライアンス教育の方法と内容」

工藤 保子 (くどう・やすこ)

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授。笹川スポーツ財団特別研究員。

【略歴】鹿屋体育大学体育学部卒業、同大学院体育学研究科修了、体育学修士。スポーツ社会学を専門とし、公益財団法人笹川スポーツ財団に26年間勤務し、2017年4月より現職。主な研究テーマは、スポーツ人口、子ども・女性のスポーツ、スポーツボランティア。

【講義概要】スポーツ・コンプライアンスについて、スポーツ選手、コーチ・指導者、児童・生徒・学生、一般市民等に、どのような素材とデータを用いて、どのような表現と教育方法・内容・カリキュラムで教育していくのか、事例・資料・エピソード等を紹介しつつ、その教育のあり方を探る。



講義⑥-1「不適切な事案が発生した場合の対応 － 競技団体内のコンプライアンス事案処理の活動経験から － 」

辻村 哲夫 (つじむら・てつお)

公益財団法人日本学生野球協会審査室長。

【略歴】名古屋大学教育学部卒業。文部科学省初等中等教育局長、東京国立近代美術館館長、独立行政法人国立美術館理事長、共立女子学園常務理事等を務めた。2014年4月より現職。

【講義概要】自ら「学生野球憲章」を制定し、自主的に高校野球・大学野球の健全な発展を図ることを目的にして設置されている日本学生野球協会の審査室長の立場から、野球の現場において「憲章」違反のような不適切な事案が発生した場合、どのような対応をして社会の信頼を得る努力をしているか、その組織・体制・対応の実際について概説する。



講義⑥-2「不適切な事案が発生した場合の対応 － 対応組織、規則、処分、公表等について － 」

上柳 敏郎 (うえやなぎ・としろう)

東京駿河台法律事務所、弁護士。スポーツ・コンプライアンス教育振興機構副代表理事。公益財団法人日本スポーツ仲裁機構執行理事。

【略歴】東京大学法学部卒業。ワシントン大学(米国シアトル)ロースクールLLM修了、米国ニューヨーク州弁護士登録。東京大学大学院修士課程修了、法学修士。現在、国際水泳連盟ドーピング審査委員、日本水泳連盟監事、日本ヒューマン・ライツ・ウォッチ協会代表理事。

【講義概要】スポーツ競技団体のコンプライアンス違反、法令違反の事案が生じた際に、いかに迅速・適切な対応を取るかが問われている。平成29(2017)年度スポーツ庁委託事業で本機構が実施した調査研究事業の成果内容や実際の不適切事案への対応例を紹介しつつ、それらの適切な対応方法、内容について、法律家の立場から解説する。



【グループワーク】

グループワークは、共通の目標の下、参加メンバー相互が話し合い、ファシリテーター(指導・助言役)の支援を得つつ、意見・情報・経験の交流を通じて、一人ひとりの参加者が成長、発展を目指す学習方法です。スポーツ・コンプライアンスに関する課題解決能力の向上を目標とし、与えられた資料、素材、事例を基に話し合いを進め、グループとしての意見をまとめ、発表し合い、全体としての学習成果を共有します。